

広島市立美鈴が丘高等学校 令和3年度 学校経営計画

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進取の気性に富み、自己の向上に努める生徒を育成する。 ・ 互いの人権を尊重しあう、思いやりの心を持った豊かな人間性を培う。 ・ 人として「自覚と責任」のある生き方ができる節度ある生徒を育成する。
--

<p>目指す学校像（ビジョン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の確実な定着を図り、個に応じた進路実現が達成できる学校 ・ 生徒の基本的な生活習慣が確立した規律ある学校 ・ 調和の取れた人格を育成する学校 ・ 保護者や地域から信頼される開かれた学校
--

年度	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			
				努力指標	成果指標		
	協同学習を基軸とした授業法を研究し、全体で共有することによって、個々の教員の授業力を向上し、主体的に学ぶ生徒を育成する。	個別最適な課題を設定し、協同学習などを活用し、解決法を自ら導く生徒を育成する。	<p>教員全員で目指す生徒像を共有する。その上で、教員一人ひとりが自身の教育活動の現状を分析し、積極的な深化・改善を促す支援を行う。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">全体</div>	4	主体的に学ぶ生徒を育成するための協同学習や授業改善に関する情報交換および検討を行う機会が、100回以上であった。	4	年度末の生徒対象アンケートで、課題解決に主体的に取り組む項目における自己評価が、4または5である生徒の割合が90%以上であった。
3				主体的に学ぶ生徒を育成するための協同学習や授業改善に関する情報交換および検討を行う機会が、75回以上であった。	3	年度末の生徒対象アンケートで、課題解決に主体的に取り組む項目における自己評価が、4または5である生徒の割合が70%以上であった。	
2				主体的に学ぶ生徒を育成するための協同学習や授業改善に関する情報交換および検討を行う機会が、50回以上であった。	2	年度末の生徒対象アンケートで、課題解決に主体的に取り組む項目における自己評価が、4または5である生徒の割合が50%以上であった。	
1				主体的に学ぶ生徒を育成するための協同学習や授業改善に関する情報交換および検討を行う機会が、50回未満であった。	1	年度末の生徒対象アンケートで、課題解決に主体的に取り組む項目における自己評価が、4または5である生徒の割合が50%未満であった。	
4				総合的な探究の授業について関係の分掌または教科と連携して行った検討会の回数が、30回以上であった。	4	年度末の生徒対象アンケートで、総合的な探究の時間の探究課題に対する取組の自己評価が、4または5である生徒の割合が90%以上であった。	
3				総合的な探究の授業について関係の分掌または教科と連携して行った検討会の回数が、20回以上であった。	3	年度末の生徒対象アンケートで、総合的な探究の時間の探究課題に対する取組の自己評価が、4または5である生徒の割合が70%以上であった。	
2				総合的な探究の授業について関係の分掌または教科と連携して行った検討会の回数が、10回以上であった。	2	年度末の生徒対象アンケートで、総合的な探究の時間の探究課題に対する取組の自己評価が、4または5である生徒の割合が50%以上であった。	
1				総合的な探究の授業について関係の分掌または教科と連携して行った検討会の回数が、10回未満であった。	1	年度末の生徒対象アンケートで、総合的な探究の時間の探究課題に対する取組の自己評価が、4または5である生徒の割合が50%未満であった。	
4				生徒の家庭学習の促進や習慣化につながるICT活用のための研修会や提案を行った回数が、10回以上であった。	4	適当な平均学習時間が年度末に増加した生徒が全体の90%以上であった。	
3				生徒の家庭学習の促進や習慣化につながるICT活用のための研修会や提案を行った回数が、7回以上であった。	3	適当な平均学習時間が年度末に増加した生徒が全体の70%以上であった。	
2				生徒の家庭学習の促進や習慣化につながるICT活用のための研修会や提案を行った回数が、5回以上であった。	2	適当な平均学習時間が年度末に増加した生徒が全体の50%以上であった。	
1				生徒の家庭学習の促進や習慣化につながるICT活用のための研修会や提案を行った回数が、5回未満であった。	1	適当な平均学習時間が年度末に増加した生徒が全体の50%未満であった。	
	高い学力と幅広い教養を育成するカリキュラム・マネジメントの確立と「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開する。	「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業を実践し、生徒の意欲向上に資する評価方法を研究・実践する。授業や定期考査の改善に向けて研究・実践する。	<p>全教員が、授業の最初に「本時の目標やめあて」を設定し、授業の最後に「本時のふりかえり」を設定し、実践する。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教務部</div>	4	「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」の設定を半数以上の授業で行った教員の割合が全教員の80%以上であった。	4	授業評価アンケートにおいて、各授業の「めあて」や「ふりかえり」への意識を持って授業を受けていると回答した生徒が、全生徒の80%以上であった。
3				「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」の設定を半数以上の授業で行った教員の割合が全教員の60%以上であった。	3	授業評価アンケートにおいて、各授業の「めあて」や「ふりかえり」への意識を持って授業を受けていると回答した生徒が、全生徒の60%以上であった。	
2				「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」の設定を半数以上の授業で行った教員の割合が全教員の40%以上であった。	2	授業評価アンケートにおいて、各授業の「めあて」や「ふりかえり」への意識を持って授業を受けていると回答した生徒が、全生徒の40%以上であった。	
1				「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」の設定を半数以上の授業で行った教員の割合が全教員の40%未満であった。	1	授業評価アンケートにおいて、各授業の「めあて」や「ふりかえり」への意識を持って授業を受けていると回答した生徒が、全生徒の40%未満であった。	
4				図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教科数が5を超えた。	4	図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教員の割合が全体の80%以上であった。	
3				図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教科数が4または5であった。	3	図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教員の割合が全体の60%以上であった。	
2				図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教科数が3であった。	2	図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教員の割合が全体の40%以上であった。	
1				図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教科数が3未満であった。	1	図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成して、授業で取り扱うまたは定期考査で出題をした教員の割合が全体の40%未満であった。	
4				全員受験の模試で、事前指導と事後指導それぞれの指導の実施状況が、ともに100%であった。	4	1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の50%以上であった。	
3				全員受験の模試で、事前指導と事後指導それぞれの指導の実施状況が、ともに80%以上であった。	3	1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の40%以上であった。	
2				全員受験の模試で、事前指導と事後指導それぞれの指導の実施状況が、ともに60%以上であった。	2	1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の30%以上であった。	
1				全員受験の模試で、事前指導と事後指導それぞれの指導の実施状況が、ともに60%未満であった。	1	1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の30%未満であった。	
	生徒一人ひとりが志を高く持ち、目標とする進路を実現する計画的な進路指導態勢を確立する。	全ての生徒が第一志望とする進路に最後まで挑戦することができる進路指導を行う。	<p>3年生において、4月当初の第一志望校を受験するために、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜等を考慮させ、第一志望校に出願できるように指導する。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">進路指導部</div>	4	3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が70%以上であった。	4	4月段階での第一志望校を受験した生徒が70%以上であった。
3				3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が60%以上であった。	3	4月段階での第一志望校を受験した生徒が60%以上であった。	
2				3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が50%以上であった。	2	4月段階での第一志望校を受験した生徒が50%以上であった。	
1				3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が50%未満であった。	1	4月段階での第一志望校を受験した生徒が50%未満であった。	

向上	<p>系統的な探究活動を研究・実践することにより、主体的に学び、思考・判断し、課題を解決しようとする生徒を育成する。</p>	<p>自ら課題を設定し主体的に学ぶ生徒を育成するため、「総合的な探究の時間」の学年全体での指導体制を構築する。</p> <p>教育研究部</p>	<p>教育研究部が中心となって、毎時間の「総合的な探究の時間」における指導資料を作成する。指導の具体については、学年会および担任副担任の連絡調整によって周知徹底を図る。</p>	<p>4 教育研究部による指導資料の提供のうち、1週間以上前に提案することができたのが全時間中の100%であった。</p> <p>3 教育研究部による指導資料の提供のうち、1週間以上前に提案することができたのが全時間中の80%以上であった。</p> <p>2 教育研究部による指導資料の提供のうち、1週間以上前に提案することができたのが全時間中の60%以上であった。</p> <p>1 教育研究部による指導資料の提供のうち、1週間以上前に提案することができたのが全時間中の60%未満であった。</p>	<p>4 総合的な学習・探究の時間における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が95%以上であった。</p> <p>3 総合的な学習・探究の時間における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が90%以上であった。</p> <p>2 総合的な学習・探究の時間における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が85%以上であった。</p> <p>1 総合的な学習・探究の時間における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が85%未満であった。</p>	
		<p>基本的生活習慣・学習習慣を確立する。互いを尊重しあい協力して目標を達成する集団を形成する。</p> <p>1年</p>	<p>授業・学校行事など学校生活において、学校のルールに従って行動し、互いに支えあう意識を持った集団を育成する。学習時間調査を利用するなどして、学習習慣の定着を図る。</p>	<p>4 学年団として実施した相互支援的な集団づくりと学習・生活習慣の定着のための取組は、9回以上であった。</p> <p>3 学年団として実施した相互支援的な集団づくりと学習・生活習慣の定着のための取組は、7回以上であった。</p> <p>2 学年団として実施した相互支援的な集団づくりと学習・生活習慣の定着のための取組は、5回以上であった。</p> <p>1 学年団として実施した相互支援的な集団づくりと学習・生活習慣の定着のための取組は、5回未満であった。</p>	<p>4 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が60%以上であった。</p> <p>3 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が50%以上であった。</p> <p>2 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が40%以上であった。</p> <p>1 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が40%未満であった。</p>	
		<p>支持的風土を醸成することを通して学習に向かう集団をつくる。</p> <p>2年</p>	<p>進路目標の確立に向けて、多角的な視点から進路研究を進める。様々な進路希望を持った生徒同士が切磋琢磨し、高め合う集団を育成する。</p>	<p>4 生徒の希望進路を具体化するための取組は、24回以上であった。</p> <p>3 生徒の希望進路を具体化するための取組は、18回以上であった。</p> <p>2 生徒の希望進路を具体化するための取組は、12回以上であった。</p> <p>1 生徒の希望進路を具体化するための取組は、12回未満であった。</p>	<p>4 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が70%以上であった。</p> <p>3 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が60%以上であった。</p> <p>2 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が50%以上であった。</p> <p>1 適当な平均学習時間が15時間以上の生徒が50%未満であった。</p>	
		<p>学年の豊かな人間関係の中でお互いを高め合いながら、全ての生徒が第一志望とする進路に最後まで挑戦することができるよう自主性の喚起と支援を行う。</p> <p>3年</p>	<p>面談や学校生活アンケートの活用、保護者との連携を図りながら生徒一人ひとりに向き合う。また、他者を尊重し最後まで学習に取り組む雰囲気を持った集団を育成する。</p>	<p>4 クラス全員に対する面談を5回以上行った。</p> <p>3 クラス全員に対する面談を4回行った。</p> <p>2 クラス全員に対する面談を3回行った。</p> <p>1 クラス全員に対する面談を行った回数が2回以下であった。</p>	<p>4 欠席30日以上生徒が5人未満であった。</p> <p>3 欠席30日以上生徒が5人以上7人未満であった。</p> <p>2 欠席30日以上生徒が7人以上9人未満であった。</p> <p>1 欠席30日以上生徒が9人以上であった。</p>	
基本的生活習慣	<p>基本的生活習慣の重要性を自覚し、節度を身に付け友愛に満ちた生徒を育成する。</p>	<p>生活習慣の基本となる遅刻者数を昨年度より減少させる。</p> <p>生活指導部</p>	<p>遅刻指導に関して学校だけの指導に止まらず、各家庭にも協力して頂けるように推進していく。</p>	<p>4 遅刻指導について、全ての該当生徒の保護者へ協力を依頼する文書の送付は100%であった。</p> <p>3 遅刻指導について、全ての該当生徒の保護者へ協力を依頼する文書の送付は90%以上であった。</p> <p>2 遅刻指導について、全ての該当生徒の保護者へ協力を依頼する文書の送付は80%以上であった。</p> <p>1 遅刻指導について、全ての該当生徒の保護者へ協力を依頼する文書の送付は80%未満であった。</p>	<p>4 遅刻者数が前年度より20%以上減少した。</p> <p>3 遅刻者数が前年度より10%以上減少した。</p> <p>2 遅刻者数が前年度とほぼ同じであった。</p> <p>1 遅刻者数が前年度より10%以上増加した。</p>	
	豊かな心の育成	<p>行事や部活動、ボランティア活動を通して生徒の自主性の向上に努める。</p> <p>生徒部</p>	<p>部活動やボランティア活動に積極的に参加させ、生きる力を養い、自己効力感を育てる。行事に前向きに取り組める生徒を育成する。</p>	<p>4 部活動やボランティア活動への参加を20回以上呼びかけ、各行事や大会等への支援を行った。</p> <p>3 部活動やボランティア活動への参加を10回以上呼びかけ、活動環境を整えた。</p> <p>2 部活動やボランティア活動への参加を数回呼びかけた。</p> <p>1 部活動やボランティア活動への参加を呼びかけなかった。</p>	<p>4 のべ500人以上の生徒がボランティア活動に参加し、80%以上の生徒が部活動に参加した。</p> <p>3 のべ400以上の生徒がボランティア活動に参加し、70%以上の生徒が部活動に参加した。</p> <p>2 のべ200人以上の生徒がボランティア活動に参加し、60%以上の生徒が部活動に参加した。</p> <p>1 のべ200人未満の生徒しかボランティア活動に参加できなかった。また、部活動参加者は60%を下回った。</p>	
		<p>地域と連携した活動を通して、ボランティア精神に富み、社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>清掃活動を充実させる。</p> <p>生活環境部</p>	<p>美化委員会の活動を強化する。日々の清掃活動に加え毎月大掃除の日を設ける。大掃除の日には校内美化の徹底を図るとともに校内安全点検を実施し、校内の安全確保と環境保全につとめる。</p>	<p>4 校内美化推進を目指して美化委員会を10回以上設定することができた。</p> <p>3 校内美化推進を目指して美化委員会を8回以上設定することができた。</p> <p>2 校内美化推進を目指して美化委員会を5回以上設定することができた。</p> <p>1 美化委員会を年4回未満しか設定できなかった。</p>	<p>4 安全点検はすべて実施され、大掃除チェック表において、95%以上の場所・項目で「よい」がついた。</p> <p>3 安全点検はすべて実施され、大掃除チェック表において、90%以上の場所・項目で「よい」がついた。</p> <p>2 安全点検はすべて実施され、大掃除チェック表において、85%以上の場所・項目で「よい」がついた。</p> <p>1 安全点検をすべて実施することができなかった。</p>
		いじめ防止	<p>「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを防止する。</p> <p>生活指導部</p>	<p>いじめの防止、早期発見に努める。いじめに対して適切な措置を行う。</p>	<p>4 学年会や関係委員会などで各学年、年30回以上、生徒の情報交換の場を持った。</p> <p>3 学年会や関係委員会などで各学年、年20回以上、生徒の情報交換の場を持った。</p> <p>2 学年会や関係委員会などで各学年、年10回以上、生徒の情報交換の場を持った。</p> <p>1 学年会や関係委員会などで各学年、生徒の情報交換の場を持った回数が10回未満であった。</p>	<p>4 関係部署で対応したいじめに関する事案数が年間5件未満であった。</p> <p>3 関係部署で対応したいじめに関する事案数が年間5件以上であった。</p> <p>2 関係部署で対応したいじめに関する事案数が年間8件以上であった。</p> <p>1 関係部署で対応したいじめに関する事案数が年間10件以上であった。</p>
			開かれた学校づくり(信頼される学校づくり)	<p>学校経営の方針や学校の特色を学校案内やホームページなどを通じて広報活動に努める。</p> <p>総務部</p>	<p>学校案内やホームページを充実させ、保護者や地域により詳しく具体的な情報を提供する。</p>	<p>ホームページの迅速且つ積極的な更新に努める。</p>
教職員が、心身ともに健康な状態で生徒と向き合う。	<p>面談等を通じて課題を共有して業務改善に努めるとともに全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校時間を45時間以下にする。</p> <p>管理職</p>			<p>勤務時間終了40分以内の退校の実施を促進する。</p>	<p>4 学年・分掌および部活動などにおいて、業務の見直しや効率化を図る連携が促進するために検討する機会や改善の実施を行った回数が7回以上であった。</p> <p>3 学年・分掌および部活動などにおいて、業務の見直しや効率化を図る連携が促進するために検討する機会や改善の実施を行った回数が5回以上であった。</p> <p>2 学年・分掌および部活動などにおいて、業務の見直しや効率化を図る連携が促進するために検討する機会や改善の実施を行った回数が3回以上であった。</p> <p>1 学年・分掌および部活動などにおいて、業務の見直しや効率化を図る連携が促進するために検討する機会や改善の実施を行った回数が2回以下であった。</p>	<p>4 週3回以上勤務時間終了後40分以内に退校を実施した教員の割合が80%以上であった。</p> <p>3 週3回以上勤務時間終了後40分以内に退校を実施した教員の割合が60%以上であった。</p> <p>2 週3回以上勤務時間終了後40分以内に退校を実施した教員の割合が40%以上であった。</p> <p>1 週3回以上勤務時間終了後40分以内に退校を実施した教員の割合が40%未満であった。</p>